口頭発表あり

皇學館CLL 09

「広報いせ」特集記事制作プロジェクト

自分で動いて、見て、聞いて、知る。

プロジェクト発足当時は伊勢市をメインとして活動していたため、伊勢市のことについて考え、学ぶことができていました。最近では伊勢市近隣の市町との広報紙合同特集が行われており、伊勢市だけではない地域のことについても考え、学ぶことができています。

＊TEAM DATA＊

- メンバー数 ：9名
- 活動場所 ：伊勢市
- 実施主体 ：伊勢市情報戦略局広報広聴課
- 担当教員 ：池山　敦（教育開発センター）
- 活動年度 ：H30, R01, R02, R03, R04

こんな人におすすめ！

- 伊勢志摩地域のことをもっと知りたい人
- 自分の能力を育成し、様々な人と関わりを持ちたい人

月別活動

（4月）広報いせ取材活動（26日）

（5月）取材内容まとめ（9日）

（10月）広報いせ事前打ち合わせ（28日）

（12月）広報いせ取材活動（9日）
取材内容まとめ（13日）

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

今年度は前年度に比べ、コロナウイルスの影響をそこまで大きく受けることなく活動をさせていただくことができました。なので、行動制限自体も少なく、活発に活動させていただいた1年だったように感じます。
新年度に移った4月から早速活動させていただきました。内容としては健康についてです。いせし健康体操をはじめとした伊勢市健康マイレージを発信するため、取材を進めさせていただきました。そして10月からは健康的な食事のサポートをしていくために健康的で簡単に作成できる料理を考案するという取り組みから始まり、その素案作成に携わらせていただいたことで、実際にそれらを作り、それを中心に取材をさせていただく形でした。今年度は比較的コロナウイルスとの折り合いを持って、精力的にミーティングや取材・撮影を行えたことは実施主体様と担当教員、大学のサポートがあったから行うことができたと考えています。本当にありがとうございました。今後も皆様のサポートがあることへの感謝を忘れず活動に力を入れていきたいと思います。

活動を通して学んだこと

さまざまな人たちと地元の魅力を伝える為に協力しあい、目の前にある課題に対して主体的に取り組むことで、コミュニケーション能力や問題解決能力を育むことができました。
また、皇學館大学に通いながらも伊勢市について知らないことも多かったのですが、広報いせの作成に携わらせていただくことで、伊勢市についての知識が深まっていきました。

実施主体からのコメント

伊勢市情報戦略局広報広聴課
ご担当者様

デジタル社会が進む中でも80％を超える市民の皆さんが伊勢市の情報を、53,600部発行の広報紙「広報いせ」から得ています（市民アンケート結果より）。その中でも表紙を含む特集記事は、広報紙の顔であり、単に市の「お知らせ」だけではなく、「よりしっかり思いを届け、理解・行動を促すもの」との認識を持って制作する使命があります。また、読者の皆さんにもその思いを伝えるためには、つくっている自分たちが楽しくやりがいを持って企画や取材をすることが大切です。
プロジェクトメンバーの学生の皆さんは、とても真剣に一人一人がこのプロジェクトの推進のために時間を充て、取り組んでくれています。
また今年度は、グローバル社会の目標であるSDGsと市民の皆さんに直結する健康づくりを掛け合わせて特集制作しました。また、動画との連携や紙面掲載のアンケート調査にチャレンジするなど、「キラリ」と光る作品を一緒につくり続けています。

担当教員より

教育開発センター　池山　敦

人に情報を伝えるのは実は難しいことが多いです。行政広報は行政機関としては大切な活動です。公として活動していることを市民に伝え、さらにそこからフィードバックを得て次の活動に活かす必要があると思います。本活動は、その一つの手段としての広報誌が若者にあまり読まれていないという点からスタートしています。良いことを広く人に伝えることの大切さと難しさを今年も学ぶことができた活動であったと感じています。

成果物／制作物